

国語 第3学年 物語のしかけのおもしろさをつたえ合おう

検討会の想定問答

指摘 1: この単元で身に付けることは何か。

返し: 物語の終わりから前の場面を読み返し、初めには気付かなかった仕掛けのおもしろさを考える。意外だったという感想から先へ進み、後で意味が変わって感じられた言葉や行動を示す。C(1)オ・C(1)カの学習として、仕掛け紹介カード。初めの受け止め方、読み返して気付いた叙述、終わりとの関係、おもしろさの理由を書く。

指摘 2: 何をもって学習できたと判断するか。

返し: おおむね満足できる状況は、物語の仕掛けを叙述から考え、そのおもしろさを伝え合い、感じ方の違いに気付いているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)オ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3: 活動が楽しいだけで終わらないか。

返し: 仕掛け紹介カードを残す。初めの受け止め方、読み返して気付いた叙述、終わりとの関係、おもしろさの理由を書く。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)オ・C(1)カに関わる学習の中身を確認める。

指摘 4: 難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し: 結末の驚きだけを話す。本文にない仕掛けを想像で作る。これについて、初読のメモを残し、再読で気になった語句を別の印で記す。最後の出来事と前の叙述を組にして説明する。気付かなかった児童にも結末を知ってから読む時間を用意する。〔知識及び技能〕(1)オとC(1)オ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5: 考えが違ったときはどう扱うか。

返し: 教師の結論を選ばせず、「最後まで読んでから前の場面を読むと、どの言葉や行動が違って見えますか。どんな仕掛けのおもしろさがありますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)オ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6: 本時の評価で態度まで決められるか。

返し: 本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7: 端末がない学級でもできるか。

返し: 仕掛け紹介カードは紙に記録できる。初めの受け止め方、読み返して気付いた叙述、終わりとの関係、おもしろさの理由を書く。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)オ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8: 時間が足りないとき、どこを残すか。

返し: 総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)オ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9: 仕掛けを先に説明した方が早いのではないか。

返し: C(1)オ・カで児童が叙述から考えをもち、共有する過程を大事にする。教師の解説は結論の提示ではなく、終わりと関係する言葉を探す支援にする。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「最後まで読んでから前の場面を読むと、どの言葉や行動が違って見えますか。どんな仕掛けのおもしろさがありますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)オ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

